

# 遊休施設の有効活用と産学官民連携による地域産業振興 “うみらいく愛南”（愛南町地域産業研究・普及センター）の開設（愛南町）

## 【取組概要】

児童減少に伴い閉校となった小学校（町立西浦小学校）を利活用し、平成25年4月に“うみらいく愛南”（愛南町地域産業研究・普及センター）を開設した。町の基幹産業である水産業等、地域産業振興の拠点施設として積極的に活用し、遊休施設の有効活用を図っている。また、愛媛大学南予水産研究センター（以下、「南水研」という。）の研究施設としても活用し、町、地域と連携して水産振興を図っている。

人口 23,739人

担当部署：水産課水産振興室

## 【取組みの効果】

施設開設2年目ではあるが、「ぎょしょく普及」の拠点として、定期的な調理実習や各種研修会などを実施し、効果的な普及促進等が図れている。研究施設としては、今まで実験室でしかできなかった養殖の研究が、飼育棟に設置した大型の陸上水槽等により、研究開発の充実が図られており、今後の結果に期待が持たれている。また、地域における波及効果として、南水研の教員、学生が、過疎化による人手不足から年々寂れている地元の祭りやスポーツ大会、町のイベントなどに積極的に参加することで、地域コミュニティが活性化されるなど、南水研が地域に果たす役割は、研究開発にとどまらず非常に大きい。



料理教室



大型陸上水槽での新養殖対象魚の研究

## 【他団体へのアドバイス】

今後も産学官民が連携して、地域産業イノベーションの創出、環境重視型産業の構築、過疎地域の農漁村の多面的機能の維持活動と人材育成といった、産業振興を図るための拠点として活用していきたい。

## 【創意・工夫した点】

町、愛媛大学、漁協、漁業者等と定期的な連絡会議を開催し、課題の抽出、課題解決に向けた取り組み、情報の共有化を図っている。また、南水研では「地域特別研究員」制度を設けており、地元漁業者や町職員等の水産振興に関心を持つ者に研究施設を利用してもらうなど、地域に密着した中で研究等を行っており、その成果を地域に還元できるシステムづくりを行っている。